

最近の就業者の労働時間と労働時間帯の関連に関する実証分析

総務省統計局 長尾 伸一

総務省統計局 野村 大輔

1 はじめに

近年話題となっている就業時間については、労働力調査の結果から、以前に比べ減少していることが分かるが、一方で長時間労働となる者が依然として多いとの印象も拭えない。就業時間の変化には、ワークライフバランスの浸透や、女性就業者の増加のほか、多様な就業形態に勤める労働者が多く含まれるサービス関連の業種の、労働者の動向が影響していると考えられる。

本研究は、労働力調査と社会生活基本調査のマイクロデータを用いて、就業時間に関する実証分析を行い、最近のわが国労働者の就業時間の特徴を明らかにすることを目的とする。

2 分析内容

労働力調査では、従来から調査されていた月末一週間の就業時間に加え、2013年から月末一週間の就業日数について、調査を開始している。この新しく得られた情報から、週就業日数と週就業時間の関係をみると、概ね就業日数が多いほど、就業時間が長くなる傾向がみられる。

ただし、労働力調査データだけでは、平日と土日の就業時間を分析することができないため、社会生活基本調査のマイクロデータを用いて、職業等の属性別及び平日・土日別の就業時間に関する分析を行った。

社会生活基本調査のデータは、調査日の24時間を15分刻みに何の行動をしていたのかという情報を把握することができ、この生活行動のうち、「仕事」の時間に該当する時間帯を、職業、男女、正規・非正規別等の属性別及び平日・土日別に把握し、時間帯別就業時間等を算出した。さらに、就業時間の変動係数等の指標を用いて、それぞれの属性における就業時間帯の違いや、平日・土日別の就業時間帯の違いと、週就業時間の関連等について分析を行った。

参考文献

黒田祥子、山本勲(2011年)「人々はいつ働いているのか? ―深夜化と正規・非正規雇用の関係―」RIETI Discussion Paper Series